



# 株主のみなさまへ

## 第53期 営業のご報告

2013年4月1日～2014年3月31日

- 2 | 会社紹介
- 3 | 社長メッセージ
- 6 | 財務ハイライト
- 7 | 事業別のご報告
- 8 | 特集:「限りなき前進」のために  
～各部門の取り組み
- 12 | トピックス
- 14 | 新製品紹介
- 15 | アンケート結果
- 16 | 連結財務諸表
- 18 | 会社概要
- 19 | 株式概要

# Ever Onward

—— 限りなき前進

「世界初」へのチャレンジの歴史が、  
「Ever Onward」の経営理念に結びついています。

当社の歩みは、現社長・島正博が「手袋編機の全自動化」という難課題を掲げて、1962年に当社を設立したことに始まります。そのひたむきな情熱と豊かな発想は、試行錯誤を経て1964年末に世界初の全自動手袋編機を世に送り出しました。技術にこだわり「最高機能の製品を経済的な価格でお届けする」という当社の企業スピリットは、創業から50年以上たった今でも生き続けています。

早くから総合メカトロニクス企業を目指してきた当社は、1970年代後半に高機能ながら価格を抑えた独自の「コンピュータ横編機」を開発。80年代には、デザインシステムなどソフト面の開発を強化することで先発の海外メーカーを凌駕し、創業20余年にして世界のトップランナーへと躍り出ました。さらに90年代には、完全無縫製型の「ホールガーメント®横編機」を世界で初めて開発。「産業革命に匹敵する」と評されるほ

どのインパクトを世界のニット業界にもたらしました。

2000年以降も、当社は多様化するニーズに応じて、品質と生産性を大幅に向上させた新機種を次々と発売。「シマセイキ」ブランドは、先進国から新興国まで世界中のユーザーに広く受け入れられるようになりました。

今後も革新的な技術開発を進めながら、企画提案型のビジネスモデルの浸透を図り、アパレル産業のみならずさまざまな業界の発展に寄与するとともに、創造力を発揮して優れた製品の開発に尽力していきます。

## 事業紹介



### 横編機事業

世界トップの技術力を誇るコンピュータ横編機を製造・販売する当社の主力ビジネス。一着丸ごと立体的に編み上げるホールガーメント横編機、ループプレスナーを備えたSRY®、より充実した編成を可能にするSVR®、コストパフォーマンスに優れたSSR®など、独自の開発力を活かした豊富なラインアップで進化し続けています。



### デザインシステム関連事業

アパレル業界のモノづくりを支援するデザインシステムを提供。バーチャルサンプルや三次元シミュレーションなどを駆使することで、多彩なデザインを可能にすると同時にリードタイムの短縮とコスト削減を実現。また、自動裁断機P-CAM®シリーズによる異業種への展開も積極的に進めています。



### 手袋靴下編機事業

当社技術開発の原点である手袋編機、靴下編機の製造・販売。ファインゲージ化などの高度技術を応用し、医療用など高付加価値分野への対応を強化しています。



### その他事業

当社編機・システム機器のメンテナンス部品の販売や修理・保守、高級カシミア糸の紡績、ニット製品の販売などの事業を行っています。

事業環境の改善を受け、大幅増収・増益を達成しました。  
次期もこの勢いを持続し、新製品の開発と各市場に応じた  
提案活動に注力します。

**Q** 当期(2014年3月期)の市況と業績について説明してください。

**A** 事業環境の好転を受け、全事業で増収・増益となりました。

当期は、事業環境が改善し、本来の競争力を発揮できる状況に戻ったことで、すべての事業において業績を伸ばすことができました。特に円高是正による価格競争力の回復が大きく、世界の各市場で高品質・高機能製品へのニーズを捉え販売拡大につなげた結果、連結売上高は406億36百万円(前期比16.2%増)と3期ぶりに増収を達成しました。

利益面でも、増収効果に加え、為替レートの好転にともなう販売価格の上昇や、増産による生産効率の向上などから、営業利益は27億31百万円(前期は営業損失5億8百万円)と大きく回復し、さらに円安で為替差益42億8百万円が発生したことで経常利益は73億52百万円(前期比76.4%増)、当期純利益は48億63百万円(同177.2%増)と大幅に増加しました。

ただし、期初の業績計画には達しなかったことを反省し、次期は全世界の市場で当社製品の優位性の訴求と顧客ニーズに応じた提案を強化し、目標を確実に達成できるよう取り組んでまいります。



代表取締役社長  
島 正博



### Q 事業分野別の状況と主な取り組みについて説明してください。

#### A 横編機事業、デザインシステム関連事業とも大幅に伸長しました。

横編機事業の主力市場の中国では、競争力の強化を図るニットメーカーに積極的な提案活動を展開したことで売上が回復しました。また、中国からの生産シフトが進むASEAN諸国やバングラデシュでも、「SSR®」などの機種を中心に販売台数が増加しました。欧州においては、従来の中国一極集中の生産体制から国内生産への回帰が見られ、販売が好調に推移しました。さらに国内市場でも、円安の追い風を受けて大手アパレルがファッション性の高い上質なニット製品の国内生産比率を高めたことで、ホールゲーム®横編機を中心に販売を伸ばしました。

デザインシステム関連事業では、「SDS®-ONE APEX3」を核としたトータルファッションシステムを幅広い地域で

提案し、国内・海外とも売上が増加しました。特に国内ではアパレル向け展示会だけでなく、さまざまな異業種の展示会にも出展し、当社製品によるビジネス効率化の提案を積極的に進めたことで幅広い業種に採用が広がりました。

### Q 次期の市場展望と施策について説明してください。

#### A 引き続き各地域・国のニーズに対応した提案活動を進めます。

為替については、現在の水準が当分続く想定しており、次期も価格面での競争力を維持しつつ、当社が培ってきた「強み」を前面に打ち出して各国の市場動向を的確に捉え、グローバルな事業展開を加速していきます。

期待する市場は、中国、ASEAN諸国、バングラデシュです。中国では市場の構造変化と顧客ニーズの質的变化に対応した提案活動に引き続き注力します。2014年6月に上海で開催される国際繊維機械見本市「ITMA ASIA+CITME 2014」では、当社の提案力と製品コストパフォーマンスの高さを中国・アジアの顧客にさらに精力的にアピールする予定で、併せて各地域での個展開催やアフターサービス体制の強化にも努めていきます。欧米市場についても、各国の国内生産回帰の動きに対応し、意欲的な現地メーカーへ積極的な提案を続けていきます。

これらの戦略を推進することにより、次期の連結業績は売上高450億円、営業利益60億円、経常利益55億円、当期純利益37億円を計画しています。

## Q ホールガーメント横編機の 拡大戦略について説明してください。

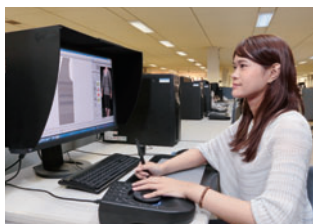
A 多様なアプローチで幅広く  
潜在需要を喚起していきます。

当社の今後の成長にとって最大の課題であるホール  
ガーメント横編機の拡大に向け、次期からはさらに提案を  
多様化させていきます。

まず、先進国での中高級ファッションへ向けたアプローチ  
です。ホールガーメント横編機とデザインシステムを組み合  
わせたビジネス成功事例を各国に広げていきます。次に、  
ボリュームゾーン商品へのアプローチも推進します。縫製  
が不要で生産性に優れたホールガーメント横編機は、コス  
ト面での優位性も高いことから、人件費高騰や労働者不足  
の課題を抱える中国市場などで、より一層提案を強化しま  
す。さらにコンパクトタイプのホールガーメント横編機によ  
り、ニット小物や雑貨、シューズ、医療用品、産業資材など  
幅広い業界に営業活動を進めます。今後も、各地で開催  
する展示会や個展を通じて、品質・生産面での高いメリッ  
トを訴求し、新規需要を開拓していきます。



コンピュータ横編機の新製品  
SRY@123LP



デザインシステム  
SDS-ONE APEX3



自動裁断機  
P-CAM@シリーズ

## Q 株主へのメッセージをお願いします。

A 理念と情熱を持ってさらなる成長を目指し、  
みなさまの期待に応えていきます。

当期の配当金については、1株につき中間配当15円、  
期末配当15円の合計30円を予定していましたが、利益  
の回復にともない、期末配当を2円50銭増額して17円50  
銭とし、合計32円50銭といたしました。今後も長期にわ  
たって安定配当を継続し、利益還元に努めていきます。

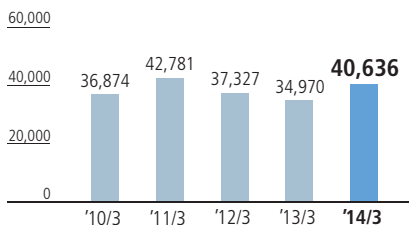
世界のニット産業は今、大きな転換期を迎えています。  
これからも当社は「理念」と「情熱」を持った社員とともに、  
既存概念にとらわれず、あらゆる“つながり”を融合させる  
ことで、経営理念「Ever Onward — 限りなき前進」を実  
践していきます。株主のみなさまには、引き続き温かいご  
支援をお願い申し上げます。

## 財務ハイライト(連結)

科 目		当 期 2014年3月期	前 期 2013年3月期	前期比
売上高	(百万円)	40,636	34,970	16.2%
営業利益・損失(△)	(百万円)	2,731	△ 508	—
経常利益	(百万円)	7,352	4,168	76.4%
当期純利益	(百万円)	4,863	1,754	177.2%
1株当たり当期純利益	(円)	142.13	51.26	177.3%
総資産	(百万円)	119,727	112,089	6.8%
純資産	(百万円)	93,222	87,382	6.7%
ROE(自己資本当期純利益率)	(%)	5.4	2.0	170.0%

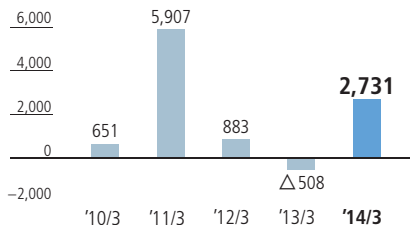
### 売上高

(百万円)



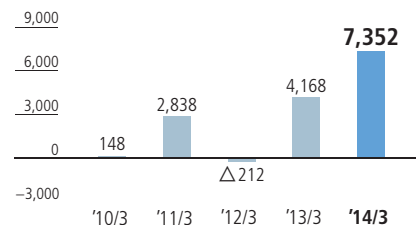
### 営業利益・損失(△)

(百万円)



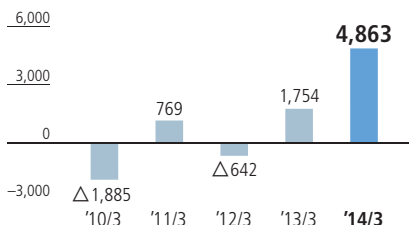
### 経常利益・損失(△)

(百万円)



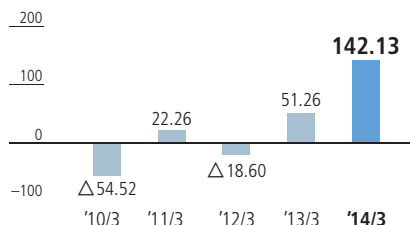
### 当期純利益・損失(△)

(百万円)



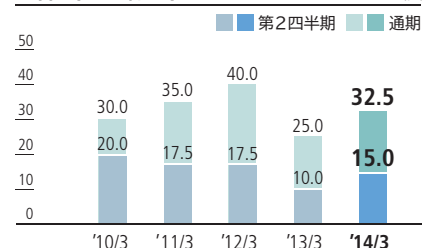
### 1株当たり当期純利益・損失(△)

(円)



### 1株当たり配当金

(円)

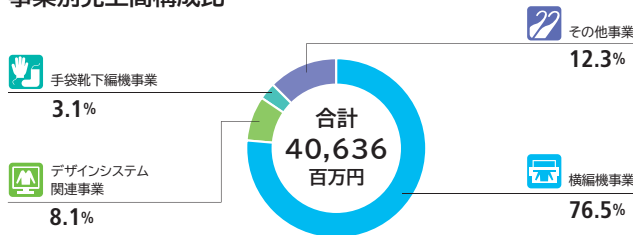


#### 将来の見通しについて

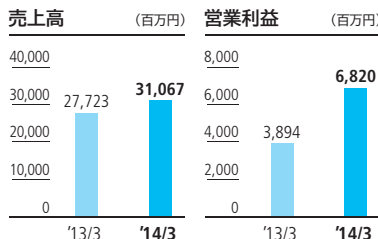
本報告書で記載されている将来に関する予測については、現在入手可能な情報から得られた当社経営者の判断に基づいて行った予測であり、実際の業績は、さまざまな要素により、これら予測とは異なる結果となる場合があることをご承知おきください。

## 事業別のご報告(連結)

### 事業別売上高構成比



### 横編機事業



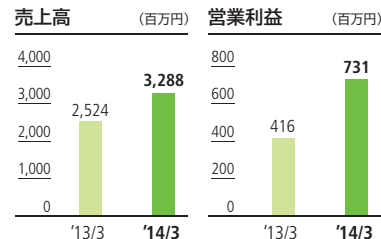
主力市場の中国では、人件費上昇や縫製労働者の不足という課題を抱えるニットメーカーに提案型営業を進めた結果、売上が回復しました。また、中国からの生産シフトが加速するASEAN諸国やバングラデシュでは、先進国アパレル向けボリュームゾーン商品の旺盛な需要を背景として、コストパフォーマンスに優れた「SSR®」を中心に売上が拡大。さらに、設備投資が活性化している韓国でも引き続き売上が伸長しました。

欧州においても、スペインなどで自国生産への回帰が見られ販売が拡大しました。イタリアは、国内景気低迷の影響を受けホールガーメント®横編機の販売は伸び悩んだものの、その他の機種需要が伸びたことで売上は増加しました。

国内市場では、中国での生産コストの上昇や円高是正により国内生産が見直される中、積極的な個展の開催などによってホールガーメント横編機を中心に売上を伸ばしました。

これらの結果、売上高は310億67百万円(前期比12.1%増)となりました。

### デザインシステム関連事業



デザインシステム

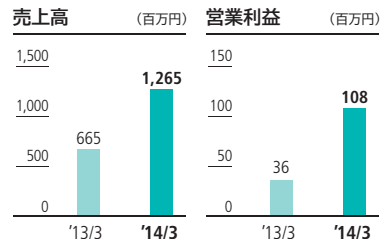
「SDS®-ONE APEX3」

は、異業種を含む多様

な展示会や個展での提案活動により、幅広い業種に採用が広がりました。自動裁断機「P-CAM®」についても機種バリエーションの拡大で新分野へ販路を広げ、海外での売上も増加しました。これらの結果、売上高は32億88百万円(前期比30.3%増)の大幅増となりました。

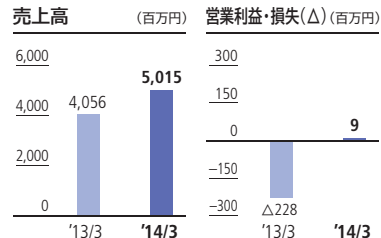
### 手袋靴下編機事業

当社製品の安定性、耐久性、最終商品の品質などの優位性が見直されたことで、売上高は12億65百万円(前期比90.0%増)と回復しました。



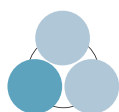
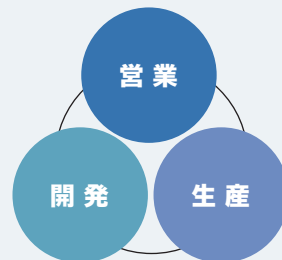
### その他事業

保守部品やカシミア糸の販売が伸びたことにより、売上高は50億15百万円(前期比23.6%増)となりました。



## 「限りなき前進」のために ～各部門の取り組み

創立50周年を迎えたシマセイキの各部門では、「これからの50年」に向け、さまざまな変革を進めています。シリーズ第2回は、シマセイキの高品質・高機能な製品を生み出し続けている「開発本部」「生産本部」の取り組みを紹介します。



### 開発本部

## 市場競争力に優れた製品の創出に注力

開発本部では近年、メカトロ開発部、グラフィックシステム開発部、両部門の情報共有化を推進しています。また、両部門と知的財産部が特許関係の分析について連携しながら、顧客のビジネスに貢献できる競争力の高い製品づくりに努めています。

顧客の求める製品をタイムリーに市場投入できるよう開発の迅速化を進めるほか、設計段階から生産部門と一体となって生産効率の向上にも注力しています。開発力の強化に向け、異業種の展示会などにも積極的に参加して最先端の技術・ノウハウの情報収集を行っており、今後も広い視野と柔軟な発想を持つ開発者を育て、「これからの50年」を支える革新的な製品を生み出していきます。

常務取締役  
開発本部長

有北 礼治



## メカトロ開発部

横編機を中心に、手袋編機、自動裁断機、プリンティングマシンなどの機械製品のメカ部分と電気制御の開発・設計およびデザインシステムの筐体設計きょうたいを担っています。部品の共通化などで原価低減に取り組む一方、開発業務のフロントローディング化(後工程で発生する負荷を前倒しする活動)や、並列化処理によって時間短縮に努めています。また、三次元プリンターを導入して試作時間の短縮を図るなど、高品質を維持しながら開発のスピードアップとコストダウンを追求しています。

## グラフィックシステム開発部

横編機、デザインシステム、自動裁断機、プリンティングマシンのアプリケーションソフトの開発を行っています。デザインシステム「SDS®-ONE APEX3」では、よりリアルな三次元バーチャルサンプルを作成できるシミュレーション機能を追求し、サンプル作成の効率化や編機との連動による生産性の向上など、ユーザーに貢献できる製品づくりを目指しています。

また、メカトロ開発部や営業本部との組織横断的なプロジェクトにより、最高機能の製品を生み出す迅速な開発を推進する一方で、開発スタッフ自らが客先を訪問しユーザー情報の収集にも努めています。

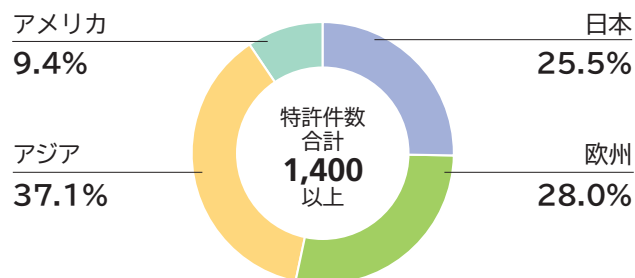


開発ミーティングの様子



デザインシステムの開発

## 地域別特許比率(2013年)

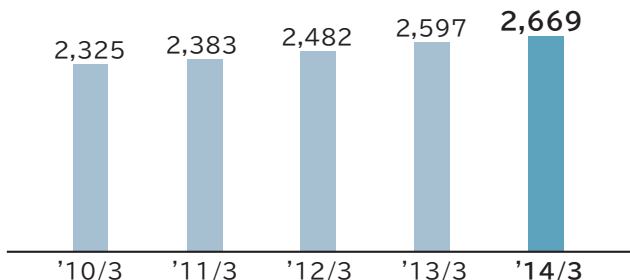


欧州とアジアについては下記の国または地域のみ含んでいます。

欧州: ドイツ、イギリス、フランス、イタリア、スペイン アジア: 中国、韓国、台湾

## 研究開発費

(百万円)



生産本部



## マーケットインの発想でモノづくりを推進

生産本部では、生産工程での作業効率を考えた設計など、開発部門と一体でのモノづくりを推進しています。また資材調達部門と生産部門が連携して、必要なものを、必要なときに、必要な分だけ作る「オンデマンド生産体制」を確立しており、顧客の要請に対応しています。

さらに製造技術部では、代理店や導入後のユーザーへ技術指導・サポート等のユーザーサービスも担っており、

世界各地の「現場」で得た情報を、素早く開発部門や営業部門にフィードバックして、品質・機能の向上につなげています。

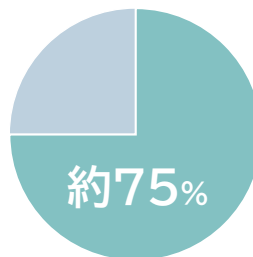
今後も先端技術とともに培った独自のノウハウを継承し、創意工夫ができる人材を育成して、シマセイキの「これからの50年」を支えていきます。



常務取締役  
生産本部長

和田 隆

### 部品内製化率



部品を内製化することで開発部門との連携がスムーズになり、開発スピード・性能の向上や組み立て工程の容易化などの効果が得られます。

### 生産本部が取り組んできた成果事例

テーマ	成果
リードタイムの短縮	編機組み立て期間を11日から4日に
占有延床面積	65%削減
作業の効率化	生産向上率175%アップ

## 生産技術部

部品の機械加工や樹脂成形品の金型設計・加工、治具の設計・製作などを担当。オンデマンド生産に対応するため、高性能マシニングセンター(工作機械)による部品の内製化を進めています。また、熱処理技術などのノウハウや、歪み取り技術などの「匠の技」の伝承にも努めています。

## 製造技術部

横編機、手袋編機の製造・組み立てとともに、販売後の顧客へのアフターサービスも担っています。きめ細かいサポートで「シマセイキ」ブランドへの信頼度を高めると同時に、現地での使用環境などの情報をリアルタイムにフィードバックし、設計や製造プロセスの改善につなげています。組み立て作業では自社開発の工程管理システムや、作業の見える化によってムダを徹底的に排除。多能工の育成にも注力し、生産効率を向上させています。



デザインシステムの  
組み立て工程



歪み取り工程



コンピュータ横編機の組み立てライン

## システム生産技術部

「SDS-ONE APEX3」、「P-CAM®」などのデザインシステム関連製品の組み立てや、横編機のコントローラなど電子機器ユニットの組み立てを担当しています。電子部品の極少化をはじめ、エレクトロニクス技術の目まぐるしい進展に対応し、クリーンルームでの自動組み立てによる電子基板の内製化を推進しています。



## 各部門の連携により、力強く事業を推進

営業・開発・生産の各部門は、さまざまな形で連携しながら活動を推進しています。開発本部は顧客の求める製品をタイムリーに市場投入すべく営業本部と日常的に情報を共有し、販売戦略と連動した開発に取り組んでいます。また生産部門と開発部門が設計段階から協働し、製造現場での生産効率を追求。さらに世界各地で販売後のユーザーサービスを担う生産部門からの情報フィードバックが、製品の改良や新たな営業提案につながっています。

## 2014年3月期の取り組み

## 第53期

## 2013年

- 4月22日 **C S R** クラシックスポーツカーの祭典「ラ フェスタ プリマヴェラ 2013」に協賛 ①  
 24日 **展示会** 医療機器展示会メドテックジャパン2013に出展【東京】
- 6月 4日 **展示会** ブラジルの機器展示会11th TECH FASHIONに出展  
 27日 **組織** 第52回定時株主総会を開催
- 7月25日 **展示会** ベトナム・ハノイで個展を開催
- 8月19日 **展示会** アパレル向け展示会ENKVEGASに出展【アメリカ】
- 9月 3日 **展示会** 糸の見本市、第22回スピンエキスポに出展【中国】  
 4日 **展示会** 第76回東京国際ファッションギフトショーに出展  
 19日 **展示会** 51st FISMA TOKYO (東京ファッション産業機器展) に出展  
 27日 **初出荷** 自動裁断機P-CAM®120Cを初出荷 ②
- 10月30日 **発表** ホールガーメント®横編機の新機種SWG®-N2シリーズ、  
 コンピュータ横編機の新機種SRV®123LP、SVR®122を発表
- 11月 6日 **展示会** SAMPE JAPAN 先端材料技術展2013に出展【東京】 □ →  
 12月10日 **展示会** ジャパン・ベストニット・セレクション2013に協賛・出展【東京】

## 2014年

- 1月13日 **業界貢献** 社長・島正博が香港ファッション・ウィークにファッションショーの審査員として参加  
 29日 **初出荷** コンピュータ横編機SRV123LPを初出荷
- 2月12日 **展示会** 第11回ジャパン・ヤーン・フェアに出展【愛知】  
 12日 **展示会** ダッカ・国際ファッション・テキスタイル&ガーメント・マシーナリー展に出展【Bangladesh】 ③
- 13日 **展示会** 韓国・ソウルで海外初の総合展を開催 □ →  
 14日 **展示会** KNIT WORLD 2014に出展【インド】
- 21日 **展示会** 第47回大阪ミシンショー&ハンズフェスティバルに出展 ④  
 3月26日 **展示会** トルコの繊維機械展 ITM TEXPO EURASIA 2014に出展 ⑤

## 第54期 (予定を含む)

- 4月26日 **放映** 日本テレビ系列「世界一受けたい授業」で当社紹介  
 5月 8日 **放映** 朝日放送「ビーバップ!ハイヒール」で当社紹介 (関西圏で放映)  
 6月16日 **展示会** ITMA ASIA+CITME 2014に出展【中国】  
 9月16日 **展示会** プルミエール・ヴィジョンに出展【フランス】



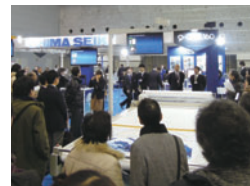
①



②



③



④



⑤

## ■ SAMPE JAPAN 先端材料技術展2013

### 先端材料の技術展に出展。高評価をいただきました。

当社は2013年11月、東京ビッグサイトで開催された「SAMPE JAPAN 先端材料技術展2013」に出展しました。炭素繊維やガラス繊維といった先端材料分野の関連企業が数多く出展する同展示会では、2011年の初出展以来、産業資材分野でのニーズを調査し、新製品開発、販促活動につなげてきました。

今回の出展では、自動裁断機「P-CAM120C」をはじめとするP-CAMシリーズ、デザインシステム「SDS®-ONE APEX3」のほか、当社の独自技術であるループプレッサーを備えたコンピュータ横編機の新機種「SRY123LP」や、ホールガーメント横編機の新機種「SWG061N2」も出品。いずれも金属糸やモノフィラメントなどの特殊素材にも対応できる機種で、実演ではステンレスワイヤーを使った編成を披露して来場者から高評価を受けました。今後も異業種分野の展示会へ積極的に出展し、新市場の開拓を進めていきます。

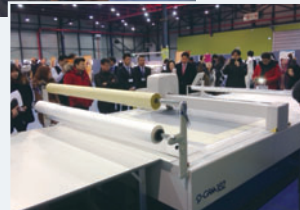
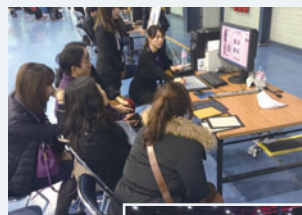


## ■ SHIMA SEIKI 総合展

### 海外初の総合展示会を韓国で開催。多彩な製品で総合力を訴求しました。

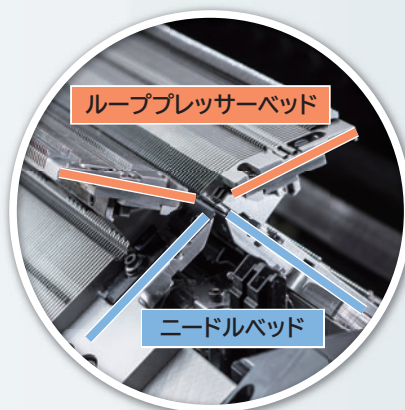
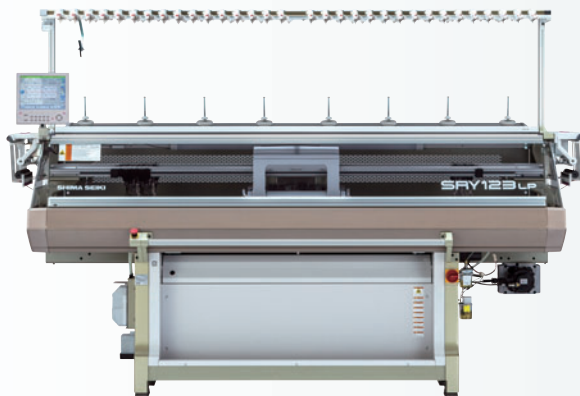
2014年2月、海外初の総合展示会となる「SHIMA SEIKI 総合展」を、韓国のSETEC(ソウル貿易展示コンベンションセンター)において2日間にわたり開催しました。会場には100体のマネキン、トルソーを含む計300点以上のニットサンプルを展示。ホールガーメント横編機「MACH2®X」シリーズや、最新機種「SRY123LP」、「SWG061N2」、「SVR122」などのほか、デザインシステム、自動裁断機、プリンティングマシンといったシマセイキの総合力を示す幅広い製品を一堂に展示し、実演デモで各製品の品質、安定性、高生産性をアピールしました。

2日間の来場260社の半数以上が新規来場者で、新たな取引先の獲得や成約・引き合いにつながりました。中には韓国を代表する大手アパレルやスポーツアパレルも来場され、トータルファッションシステムなどの提案に高い評価を得ることができました。



# アパレル、インテリアから産業資材まで、幅広い編成が可能 ループプレッサー搭載 「SRV<sup>®</sup>123LP」

2013年10月に発表したコンピュータ横編機「SRV123LP」は、当社独自の4枚ベッド構造を応用した全く新しいタイプの横編機です。新開発の「ループプレッサーベッド」をニードルベッドの上部に搭載し、針と同数のループプレッサーを備えることで、ループひとつひとつを押さえることが可能になりました。この機能により、インレイ編み（下記コラム参照）や引き返し編みを安定的に編成できるようになり、デザインの幅が大きく広がるとともに、インテリアや産業資材分野への応用も見込めます。今後も展示会、個展への出展などを通じて、販売拡大につなげていきます。

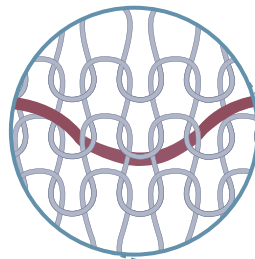


ループプレッサーベッドとニードルベッドの4枚ベッド構造

## インレイ編みとは

「インレイ編み」とは、ベースとなる編地に横糸をインレイ（挿入）する編み方です。横糸を編地のループの間に通すことでインレイ編みを作ります。また、横糸を挿入することによりニット特有である横方向の伸縮性を抑えることができ、織物のような編地の提案も可能となります。さらに金属糸やモノフィラメントなどの特殊素材を用いることができるため、新たな分野の開拓も期待できます。

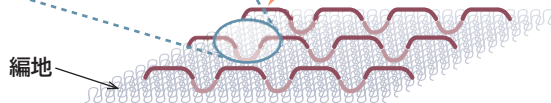
## ループの拡大図



横糸を挿入して  
編んだ生地  
の拡大図



ループプレッサーで  
編地のループを押さえ、  
横糸の挿入を容易にする



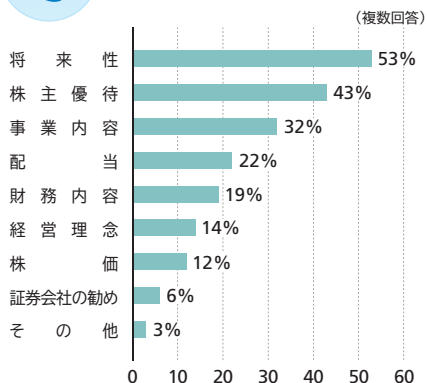
# 株主様アンケート集計結果のご報告

当社では株主のみなさまの声をお聞かせいただくため、定期的にハガキによるアンケートを実施しています。昨年12月発行の第53期第2四半期「株主のみなさまへ」に同封したアンケートでは、約2,700名の株主様からご回答を

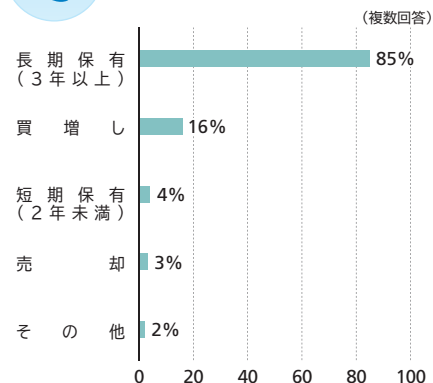
いただきました。

みなさまから頂戴した貴重なご意見を真摯に受け止め、今後の広報・IR活動や事業活動に活かしてまいります。ご協力いただき、誠にありがとうございました。

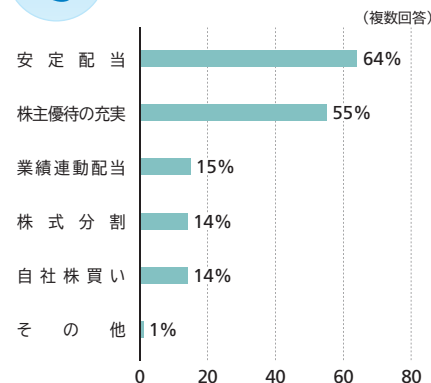
## Q.1 当社の株式を購入された理由は何ですか？



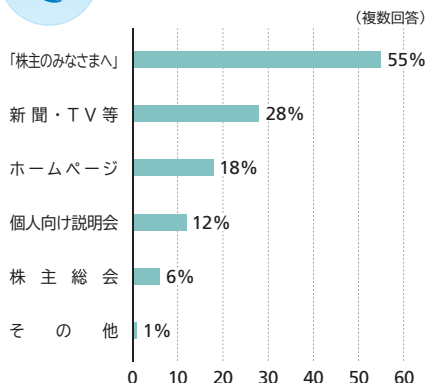
## Q.2 当社の株式について今後どのようにお考えですか？



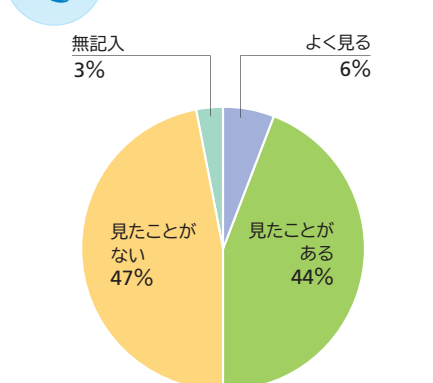
## Q.3 株主還元に関して当社に期待されることは何ですか？



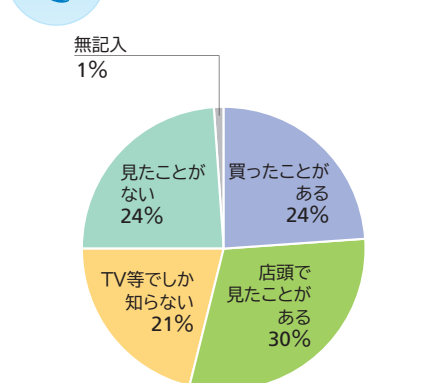
## Q.4 会社情報を提供する手段として当社が今後充実すべきなのは？



## Q.5 ホームページのIR情報をご覧になったことがありますか？



## Q.6 当社の編機で作られるホールゲーム®について



## 連結財務諸表(要約)

### 連結貸借対照表

(単位:百万円)

科 目	当 期	前 期
	2014年3月31日現在	2013年3月31日現在
<b>流動資産</b>	<b>80,297</b>	<b>73,754</b>
現金及び預金	16,002	19,737
受取手形及び売掛金	42,964	33,700
その他	22,631	21,451
貸倒引当金	△ 1,301	△ 1,133
<b>固定資産</b>	<b>39,430</b>	<b>38,334</b>
有形固定資産	19,876	20,138
土地	10,879	10,833
その他	8,997	9,305
無形固定資産	4,852	4,816
のれん	4,762	4,706
その他	90	110
投資その他の資産	14,700	13,378
投資有価証券	8,417	7,215
その他	7,598	7,355
貸倒引当金	△ 1,315	△ 1,191
<b>資産合計</b>	<b>119,727</b>	<b>112,089</b>

#### POINT 1 資産合計

受取手形及び売掛金の増加により、前期末に比べ76億37百万円増加しました。

#### POINT 2 負債合計

未払法人税等の増加により、前期末に比べ17億97百万円増加しました。

#### POINT 3 純資産合計

当期純利益の計上により利益剰余金が増加したことで、前期末に比べ58億40百万円増加しました。

科 目	当 期	前 期
	2014年3月31日現在	2013年3月31日現在
<b>流動負債</b>	<b>18,514</b>	<b>16,109</b>
支払手形及び買掛金	4,290	4,445
短期借入金	6,695	5,399
1年以内返済予定の長期借入金	—	1,500
その他	7,528	4,764
<b>固定負債</b>	<b>7,989</b>	<b>8,597</b>
長期借入金	5,000	5,000
その他	2,989	3,597
<b>負債合計</b>	<b>26,504</b>	<b>24,706</b>
<b>株主資本</b>	<b>100,837</b>	<b>97,000</b>
資本金	14,859	14,859
資本剰余金	21,724	21,724
利益剰余金	71,158	67,321
自己株式	△ 6,904	△ 6,905
<b>その他の包括利益累計額</b>	<b>△ 7,808</b>	<b>△ 9,811</b>
その他有価証券評価差額金	328	259
土地再評価差額金	△ 7,350	△ 7,350
為替換算調整勘定	△ 1,138	△ 2,720
退職給付に係る調整累計額	351	—
<b>新株予約権</b>	<b>180</b>	<b>181</b>
<b>少数株主持分</b>	<b>13</b>	<b>12</b>
<b>純資産合計</b>	<b>93,222</b>	<b>87,382</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>119,727</b>	<b>112,089</b>

#### POINT 4 売上高

主力の横編機事業の売上がアジア市場を中心に拡大しました。またデザインシステム関連事業ではアパレル分野以外にも販路が広がり、手袋靴下編機事業においても大幅に売上が回復するなど、すべての事業セグメントで前期に比べ売上が拡大しました。その結果、売上高は前期比16.2%増となりました。

#### POINT 5 営業利益・損失(△)

為替レートの好転にともなう円換算販売価格の向上や増産効果などにより売上総利益率が上昇したことなどで、営業利益は27億31百万円となりました。



## 連結損益計算書

(単位:百万円)

科 目	当 期	前 期
	2013年4月1日から 2014年3月31日まで	2012年4月1日から 2013年3月31日まで
4 売上高	40,636	34,970
売上原価	23,367	22,758
売上総利益	17,269	12,212
販売費及び一般管理費	14,537	12,720
5 営業利益・損失(△)	2,731	△ 508
営業外収益	5,000	4,977
営業外費用	379	299
6 経常利益	7,352	4,168
特別利益	—	42
特別損失	122	848
税金等調整前当期純利益	7,230	3,362
法人税、住民税及び事業税	2,427	429
法人税等調整額	△ 61	1,178
少数株主利益	0	0
当期純利益	4,863	1,754

## 連結株主資本等変動計算書

(単位:百万円)

	株主資本					その他の包括利益累計額					新株 予約権	少数 株主持分	純資産 合計
	資本金	資本剰余金	利益剰余金	自己株式	株主資本合計	その他有価証券 評価差額金	土地再評価 差額金	為替換算 調整勘定	退職給付に係る 調整累計額	その他の包括利益 累計額合計			
2013年4月1日残高	14,859	21,724	67,321	△ 6,905	97,000	259	△ 7,350	△ 2,720	—	△ 9,811	181	12	87,382
連結会計年度中の変動額													
剰余金の配当			△ 1,026		△ 1,026								△ 1,026
当期純利益			4,863		4,863								4,863
自己株式の取得				△ 4	△ 4								△ 4
自己株式の処分			△ 0	6	5								5
株主資本以外の項目の 連結会計年度中の変動額(純額)						69	—	1,581	351	2,002	△ 0	0	2,002
連結会計年度中の変動額合計	—	—	3,836	1	3,837	69	—	1,581	351	2,002	△ 0	0	5,840
2014年3月31日残高	14,859	21,724	71,158	△ 6,904	100,837	328	△ 7,350	△ 1,138	351	△ 7,808	180	13	93,222

### POINT 6 経常利益

営業外で為替差益42億8百万円を計上したことなどにより、経常利益は73億52百万円となりました。

### POINT 7 営業活動によるキャッシュ・フロー

売上債権の増加や仕入債務の減少などにより、24億1百万円の資金の減少となりました。

## 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

科 目	当 期	前 期
	2013年4月1日から 2014年3月31日まで	2012年4月1日から 2013年3月31日まで
7 営業活動による キャッシュ・フロー	△ 2,401	3,614
8 投資活動による キャッシュ・フロー	△ 366	△ 3,218
9 財務活動による キャッシュ・フロー	△ 1,596	227
現金及び現金同等物に 係る換算差額	1,536	1,412
現金及び現金同等物の 増減額(△は減少)	△ 2,828	2,035
現金及び現金同等物の 期首残高	16,648	14,190
新規連結に伴う現金及び 現金同等物の増加額	—	421
現金及び現金同等物の 期末残高	13,819	16,648

### POINT 8 投資活動によるキャッシュ・フロー

定期預金の払戻や有価証券の売却による収入などがありましたが、投資有価証券の取得による支出などにより、3億66百万円の資金の減少となりました。

### POINT 9 財務活動によるキャッシュ・フロー

配当金の支払やファイナンス・リース債務の返済による支出などにより、15億96百万円の資金の減少となりました。

注) 詳細につきましては、当社ホームページをご覧ください。

## 会社概要

### 会社概要 (2014年3月31日現在)

商号	株式会社島精機製作所
(英文表記)	SHIMA SEIKI MFG., LTD.
本社	和歌山県和歌山市坂田85番地
創立	1962年2月4日
資本金	148億5,980万円
従業員数	1,203名(連結1,751名)
事業内容	コンピュータ横編機 コンピュータデザインシステム CAD/CAMシステム 手袋編機、靴下編機



本社ビル

### 事業所 (2014年6月27日現在)

#### 支店、テクニカルサービスセンター (TSC)

東京支店	(東京都中央区)
東京 TSC 甲府	(山梨県中巨摩郡昭和町)
東京 TSC 太田	(群馬県太田市)
東日本支店	(新潟県五泉市)
東日本 TSC 山形	(山形県山形市)
東日本 TSC 福島	(福島県伊達市)
西日本支店	(大阪市北区)
西日本 TSC 名古屋	(名古屋市中区)
西日本 TSC 泉州	(大阪府泉大津市)
西日本 TSC 四国	(香川県東かがわ市)

海外支店 台北支店 (台北市)

工場 本社工場 (和歌山県和歌山市)

### 役員 (2014年6月27日現在)

地位	氏名	担当および重要な兼職
代表取締役社長	島 正博	営業本部長
取締役副社長	島 三博	営業本部副本部長
常務取締役	和田 隆	生産技術部、製造技術部、システム 生産技術部担当兼生産本部長
常務取締役	有北 礼治	開発本部長
常務取締役	梅田 郁人	営業本部副本部長兼経営企画部長兼 島精機(香港)有限公司CEO
取締役	藤田 紀	総務人事部長
取締役	中嶋 利夫	トータルデザインセンター部長
取締役	南木 隆	物流部担当兼経理財務部長
取締役	西谷 泰和	資材部長
取締役	西川 清方	営業統括部長
取締役	一柳 良雄	株式会社一柳アソシエイツ 代表取締役&CEO
常勤監査役	植田 光紀	
常勤監査役	田中 雅夫	
監査役	的場 悠紀	弁護士
監査役	新川 大祐	公認会計士・税理士

(注) 1. 取締役 一柳良雄氏は、社外取締役であります。

2. 監査役 的場悠紀、新川大祐の両氏は、社外監査役であります。

### 連結子会社 (2014年3月31日現在)

株式会社シマファインプレス	(和歌山県和歌山市)
ティーエスエム工業株式会社	(和歌山県和歌山市)
株式会社海南精密	(和歌山県海南市)
東洋紡糸工業株式会社	(大阪府泉北郡忠岡町)
SHIMA SEIKI EUROPE LTD.	(イギリス)
SHIMA SEIKI U.S.A. INC.	(アメリカ)
島精機(香港)有限公司 (SHIMA SEIKI (HONG KONG) LTD.)	(中国)
SHIMA SEIKI ITALIA S.p.A.	(イタリア)
島精榮榮(上海)貿易有限公司 (SHIMA SEIKI WIN WIN SHANGHAI LTD.)	(中国)
SHIMA SEIKI SPAIN, S.A.U.	(スペイン)
東莞島榮榮貿易有限公司 (SHIMA SEIKI WIN WIN DONGGUAN LTD.)	(中国)
SHIMA SEIKI (THAILAND) CO., LTD.	(タイ)
SHIMA SEIKI KOREA INC.	(韓国)

## 株式概要

### 株式の状況 (2014年3月31日現在)

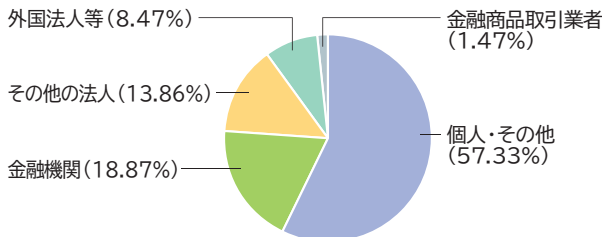
- ①発行可能株式総数…………… 142,000,000株
- ②発行済株式の総数…………… 36,600,000株
- ③株主数…………… 19,927名
- ④大株主

(千株未満切捨て)

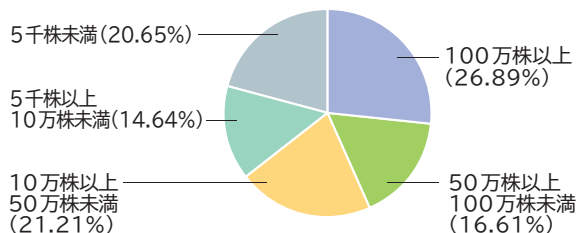
株主名	持株数(千株)	持株比率(%)
和島興産株式会社	2,870	8.39
株式会社紀陽銀行	1,310	3.83
エヌケイ興産株式会社	1,150	3.36
島 正 博	1,070	3.13
島 三 博	1,060	3.10
株式会社三菱東京UFJ銀行	880	2.57
合同会社和光	765	2.24
シマセイキ社員持株会	738	2.16
株式会社池田泉州銀行	700	2.05
後藤ひろみ	697	2.04

(注)当社は、自己株式2,380千株を保有していますが、上記大株主から除外しています。  
持株比率は、自己株式を控除して計算しています。

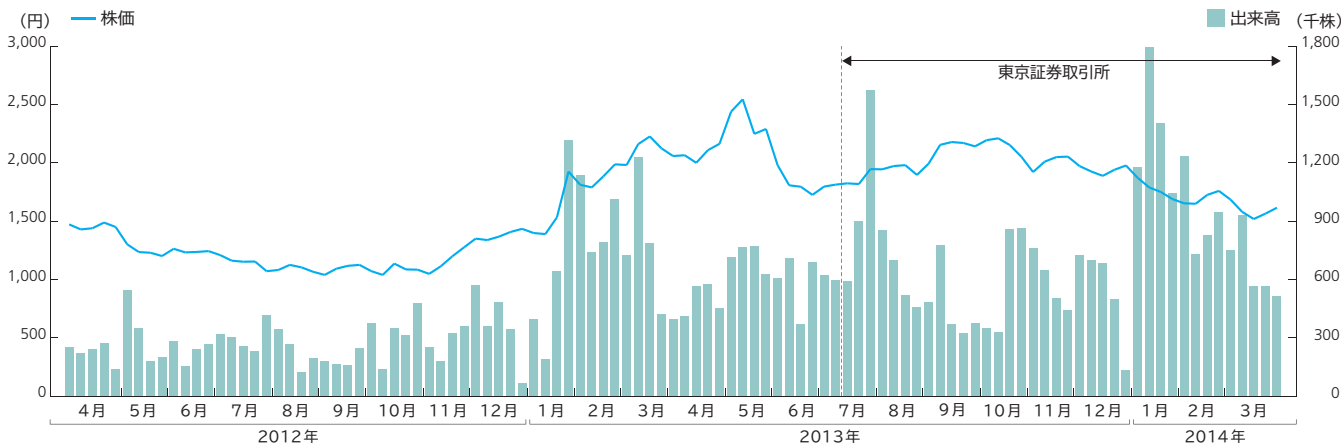
### 所有者別分布



### 所有数別分布



### 株価と出来高の推移 (過去2年間) ※ 大阪証券取引所 (2013年7月16日より東京証券取引所)



## 株主メモ

事業年度 4月1日から翌年3月31日まで

定時株主総会 基準日 3月31日  
開催日 毎年6月

配当金受領株主確定日 期末配当金 3月31日  
中間配当金 9月30日

公告方法 電子公告  
下記当社ホームページに掲載  
(<http://www.shimaseiki.co.jp/irj/irj.html>)  
ただし、事故その他やむを得ない事由によって  
電子公告によることができない場合は、日本経済新聞に掲載

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社  
特別口座の口座管理機関

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社  
大阪証券代行部  
〒541-8502  
大阪市中央区伏見町三丁目6番3号  
TEL 0120-094-777(通話料無料)

(ご注意)

1. 株主様の住所変更、買取請求その他各種お手続きにつきましては、原則、口座を開設されている口座管理機関(証券会社等)で承ることとなっておりますので、口座を開設されている証券会社等にお問い合わせください。株主名簿管理人(三菱UFJ信託銀行)ではお取り扱いできませんのでご注意ください。
2. 特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、特別口座の口座管理機関(三菱UFJ信託銀行)にお問い合わせください。なお、三菱UFJ信託銀行全国本支店にてもお取り扱いさせていただきます。
3. 未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。



株式会社島精機製作所

〒641-8511 和歌山市坂田85番地

TEL(073)471-0511(代表)

<http://www.shimaseiki.co.jp/>

SHIMA SEIKI、シマセイキ、ホールガーマント、MACH2、P-CAM、SDS、SDS-ONE、SDS-ONE APEX、SRY、SSR、SVR、SWG、トータルファッションシステムは株式会社島精機製作所の日本及びその他の国における登録商標または商標です。



ユニバーサルデザイン(UD)の考えに基づいた  
見やすいデザインの文字を採用しています。



この報告書は環境にやさしい  
ベジタブルインキを使用しています。